

平成21年度概算要求における科学技術関連施策の重点化の推進について  
 ○優先度判定(SABC)及び改善・見直し指摘の結果(抄)

施策名	所管	概算 要求額	前年度 予算額	戦略 重点	先駆的 取組	競争的 資金	施策の概要	改善・見直し指摘内容	特記事項	昨年度指摘事項
革新的タンパク質・細胞解析 研究イニシアティブ(ターゲット タンパク研究プログラム) [競争的資金]	文部科学省	5,200	5,200	○		○	<p>生命現象の統合的理解には、生命の基本単位である遺伝子、タンパク質、細胞の理解が重要である。</p> <p>そこで、タンパク3000プロジェクト等で得られた成果や基盤を活用しつつ、学術研究や産業振興に重要なタンパク質をターゲットとし、それらの構造・機能解析に必要な技術開発と研究を行う。</p> <p>さらに、ゲノムネットワーク等で得られた成果や基盤を活用しつつ、従来なしえなかった大規模・多面的な遺伝子情報解析やリアルタイム細胞解析等の手法を駆使し、細胞・生命プログラム解読に挑む。</p>	<p>○これまでのタンパク3000プロジェクト等で得られた成果を活用し、基本的な生命の解明、医学・薬学等への貢献、食品・環境等の産業応用の3分野において、タンパク質の構造・機能の研究を進めることは有意義である。</p> <p>○研究を効率的・効果的に進めるために、理研と他の拠点との連携や、経済産業省との連携を図り、我が国として統一的な制度設計・運用を目指すことが必要である。</p> <p>○競争的資金の運営に関しては、統一的な制度設計・運用改善がなされておらず、事業毎に配置されたPD・POの役割もまちまちである。全体としてのコンセプトを明確にし、一つの制度としての制度設計を再考すべきである。</p> <p>○事前評価のフォローアップにおいて、ターゲットとして選定されたタンパク質ネットワーク群の一部が公募によって充足できなかったことについて、適切に対応すべきとの指摘がなされた。それに対して、外部評価専門家を含む評価委員会等の評価を受けた上で、欠落とされた2課題の公募を行うこととしており、適切に対応が検討されている。その結果については、報告を求める。</p> <p>○また、化合物ライブラリの外部公開を進めるため、ロードマップを示し体制を整備すべきとの指摘については、既に検討委員会を立ち上げ、今年度中に先行配布を開始し、平成21年度から本格稼働させることとしており、こうした迅速な対応は評価できる。</p> <p>○重要な課題提案で、世界をリードしていくために重要な分野であることから、上記の指摘を踏まえた上で、着実・効率的に実施する必要がある。</p>	<p>○理研や経済産業省との連携を図り、統一的な運営を目指すべきである。</p> <p>○全国に開かれた拠点としての利用計画を早急に整備すべきである。</p> <p>○欠落している課題について、適切に公募採択を行いプログラム全体の推進を図るべきである。また、その結果については報告を行うこと。</p>	<p>○評価委員会のコメントを踏まえ着実に実施すべきである。</p> <p>○中間評価を実施して選択・集中を進めるよう努力すべきである。</p> <p>○参加者のエフォート管理を適切に行うことが必要である。</p>

優先度	施策名	所管	概算 要求額	戦略 重点	先駆的 取組	競争的 資金	施策の概要	改善・見直し指摘内容	特記事項
B	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ(革新的細胞解析研究プログラムのうち先導研究部分) [競争的資金として要求]	文部科学省	1,385	○		○	<p>遺伝子発現制御、シグナル伝達、代謝制御などについて、従来なしえなかった大量かつ多面的なゲノム情報やリアルタイム細胞解析等の手法を駆使し、我が国のライフサイエンス研究全体に資する基盤の構築に資する細胞・生命プログラム解読を目指す。</p> <p>具体的には、拠点に整備される次世代シーケンサーと超大量データを解析するシステムを我が国の研究機関共通の研究基盤として広く活用し、細胞・生命プログラムの解読に資する細胞機能の研究や遺伝子発現機構の解明等に関する先導的研究を行う。</p>	<p>○次世代高速シーケンサーと情報処理技術を活用して、大量のゲノム情報等を解析し、様々な生命現象を解明していく先導的な研究を行うことは、国際競争の激しい分野で競争力を強化して行くために大変重要な事業である。</p> <p>○特に、拠点に整備されたシーケンサーが、オールジャパンの研究資源として様々な研究機関によって広く活用され、我が国の研究活力と研究の質を高めていくことが重要である。</p> <p>○事業を実施するに当たっては、シーケンサーを広く活用していくための方策について、十分に検討しておくことが求められる。</p> <p>○競争的資金の運営に関しては、統一的な制度設計・運用を行うべきであり、事業毎に配置されるPD・POの役割を明確化すべきである。全体としてのコンセプトを明確にし、一つの制度としての制度設計をすべきである。</p> <p>○高速シーケンサー拠点形成し、それをオールジャパンの研究資源として広く活用していくことは重要な事業であり、効果的・効率的に実施すべきである。</p>	<p>○経済産業省等の事業を含め、オールジャパンでの長期戦略を策定して進めるべきである。</p> <p>○とりわけ2年後に発売予定の次世代型の高性能・低コスト機種の利用計画を考慮した計画を立てるべきである。</p> <p>○設置されたシーケンサーを、より多くの研究機関で有効活用できるような事業運営とすべきである。</p> <p>○理研が行う研究と、本事業で行う研究との役割分担と連携内容を明確にすべきである。</p> <p>○費用対効果を勘案し、解析対象は網羅的ではなく的を絞るとともに、公募で行う課題を含め全体としての戦略を策定し、ロードマップを示すべきである。</p>
C	革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ(革新的細胞解析研究プログラムのうち設備整備部分) [競争的資金として要求]	文部科学省	315	○		○	<p>革新的な解析能力を持つ次世代シーケンサーを拠点に配置して細胞・生命プログラムの解明を目指した大量かつ多面的なゲノム情報の統合的解析を行う。</p>	<p>○次世代シーケンサーを配備した研究拠点を整備し、細胞・生命プログラム解読に向けた研究を行っていくことは、重要な事業である。</p> <p>○しかし、機器整備そのものについては、他事業の中でも取り組むこととしており、それらを活用すれば、本事業の中で機器整備を行わなくとも、革新的細胞解析プログラムを実施することは可能であると判断できるため、拠点に整備される機器を活用した先導的研究に重点的に取り組むよう、計画を見直す必要がある。</p>	